

もくじ

a. 西サハラ連帯自転車ツアー ー報告会	3
☆難民キャンプで願う祖国の平和と自由	
b. どうなってるの？ 私の衣服の一生 ー大量生産・消費・廃棄の問題について考える	4
c. アイヌ語と縄文語	
d. 後志地方のアイヌ史をめぐるバスツアー	5
☆在日コリアンドキュメンタリー映画上映会	
01. Let's Talk! 世界と出会う、英語	6
02. タシ ハンボン / もういちど ハングル	
03. 日本の植民地主義を考える ー共につなぐ未来のために part 2	7
04. 札幌オリパラを考えよう part 2	8
05. マイナンバー制度を考える	9
06. ベーシックインカムを再考する ー生活保障と脱成長との関係から	10
07. 老いと向き合う part 10	11
08. なぜイギリス・EUで学ぶのか ー1年以上滞在してみえてきたことは？	12
09. 越境する人と文化を通して読み解く東アジア VI ー地域から多文化共生を考える	13
10. 中国語で読み解く東アジア ー連鎖（つながりの）視点をういて	
11. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝 part 4	14
12. 言葉から考える琉球・沖縄の植民地化	15
13. ワークショップで共に学ぶ ー世界と「北海道」の開発・多様性・未来	16
14. 先住民族の森川海に関する権利 3 ー川とサケとアイヌ民族	17
15. このままでいいの？ 再生可能エネルギーの進め方 part 13	18
16. LGBT 理解増進法が成立した今、知りたいこと	19
17. 人と動物との共存・共生をめざして part 3	20
18. 出版文化の可能性 ー北海道から全国に向けて発信しよう part 2	21
19. 安保3文書を読み解く ー批判的安全保障の観点から	22
20. 半導体産業戦略の是非を問う	23
21. アイヌアートデザイン教室	24
22. 読書室よりみちまわりみち	
23. カール・マルクス著『資本論』を読む	25
24. 「遊」版 うたごえ喫茶 2023	
e. 美味しい講座 縄文を食べる2 ーエゾシカ、きのこの最新科学と料理	26
f. VR アートの大きな可能性 ー生成AIと空間コンピュータ時代に開花する	

※ a,b,c…は単発 or 特別企画、01,02,03…は連続講座です。



表紙デザイン いのうえしんぢ

講座の開催形態とお申込方法

講座の開催形態は、①会場実施のみ、②会場とオンラインの併用、③オンラインのみ、の3種類となっています。以下のロゴマークを参照ください。



会場実施



会場
オンライン併用



オンライン実施

講座受講のお申込は、以下のいずれかの方法でお願いいたします。

<方法1>

以下の申込フォーム URL (右のQRコード) より、申込フォームにご記入のうえ、お送りください。

連続講座申込フォーム <https://onl.la/kn9Q5rt>

単発 / 特別企画申込フォーム <https://onl.la/hziK6H3>

(さっぽろ自由学校「遊」のウェブサイトからもアクセスできます)



連続講座申込 QR コード



単発 / 特別企画申込 QR コード

<方法2>

以下のメールアドレス宛に、「講座申込」のタイトルで希望の講座名(単発の場合、日程も)、受講形態(会場 / オンライン)、お名前、ご住所、メールアドレスを記入のうえ、お送りください。 moshikomi@sapporoyu.org

上記の方法でお申込いただいた後、以下の郵便振替口座に参加費をお振り込みください。

(記入が可能な場合は、通信欄に講座名や受講日をご記入ください)

郵便振替口座 02780-5-47036 自由学校「遊」(記号 02780 番号 047036)

※他行からお振込みの場合 ゆうちょ銀行(9900)二七九店(279)当座 0047036

<受講料(参加費)について>

- ・連続講座の受講料は、「通し」は連続講座全回分の料金、「単発」は1回毎の参加料金となります。
- ・受講料の種別について

会 員：さっぽろ自由学校「遊」の正・準会員の方。

なお、特別会員の方は**単発参加設定のある連続講座に無料で参加**できます。

一 般：上記以外のすべての方が対象です。(25歳以下の若者は、特別料金で参加できます)

<ボランティア・インターン募集!>

さっぽろ自由学校「遊」は、市民が自主的に運営している「学びの場」です。その運営は多くのボランティア・スタッフによって支えられています。単純作業のお手伝いといった軽い関わりから、講座のコーディネートなどの深い関わりまで、様々な関わり方が可能です。活動に興味のある方は、事務局までご連絡ください。学生などのインターンも募集しています。

Solidarity Rising Bike4WesternSahara a. 西サハラ連帯自転車ツアー報告会



会場 & オンライン

西サハラ(Western Sahara)は北アフリカの大西洋岸に位置する旧スペイン植民地で、1975年、独立過程で隣国のモロッコに侵攻されました。現在も領土の大半がモロッコの占領下にあり、そこでは自由を求める人々に対する深刻な人権侵害が続いています。

スウェーデン人のベンジャミン・ラドラ(Benjamin Ladraa)さんとサナ・ゴトビ(Sanna Ghotbi)さんは、西サハラへの関心を高めるため、世界中を自転車で旅行しながら問題を訴える活動を始めました。今年約2ヶ月かけて、日本列島を縦断し、9月には北海道に到着予定です。今回、札幌滞在時にお二人のお話を聴く機会を設けたいと思います。

日 程 9月23日(土) 14:00~16:00

会 場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 800円(25歳以下500円)

ゲスト ベンジャミン・ラドラ(Benjamin Ladraa)
サナ・ゴトビ(Sanna Ghotbi)

共 催 北海道NGOネットワーク協議会

協 力 西サハラ友の会



サナさん(左)とベンジャミンさん(右)

西サハラ全国スピーキングツアー 2023 in 札幌 難民キャンプで願う祖国の平和と自由 —ファトマ・ブラーヒームさん札幌講演会—

難民キャンプに生まれ育った「サハラウィ」(西サハラの人びとは自らをそう呼ぶ)として、西サハラの問題をどう学び、いかにして民族運動に参加するようになったのか。難民の若い世代はどんな未来を展望しているのか。難民キャンプはいかなる問題を抱えているのか。そして国際社会に何を望むのか。この講演では、これらのことについて当事者から話を聞きます。

●日 時 11月10日(金) 18:30-21:00(18:00開場)

●会 場 札幌エルプラザ・4階中研修室(札幌市北区北8西3)

●参加費(資料代)800円

●申 込 <https://onl.la/wrACC8i>

申込 QR コード→

●お 話 ファトマ・ブラーヒームさん

アルジェリア・チンドウフのサハラウィ難民キャンプに生まれ育つ。オラン第一大学人文・イスラーム学部メディア・コミュニケーション学科卒業、同大学院視聴覚学専攻修士課程修了。難民キャンプでイタリアの開発 NGO に勤務しながら、西サハラ学生連合(UESARIO)外交委員会アフリカ担当として活動している。

共催：清未愛砂研究室・日本平和学会北海道東北地区研究会・北海道平和運動フォーラム・さっぽろ自由学校「遊」
問合せ先：笹岡正俊(m.sasaoka@let.hokudai.ac.jp)



*西サハラとは? : 「アフリカ最後の植民地」西サハラは1975年、スペインからの独立過程でモロッコに侵略され、以来その80%が占領下にあります。国連は1991年に住民投票の実施を決めましたが、モロッコのサボタージュと大国の思惑によって実現していません。アルジェリアの難民キャンプに拠点を置くサハラウィ(西サハラの人びと)は「サハラ・アラブ民主共和国」の樹立を宣言し、モロッコの占領下に暮らすサハラウィは激しい弾圧を受けながらも非暴力の抵抗運動を続けています。難民キャンプには約17万人が暮らし、住民投票を経て、解放された祖国に帰れる日を待ち望んでいます。

b. どうなってるの？ 私の衣服の一生 —大量生産・消費・廃棄の問題について考える



会場

皆さんは衣服のライフサイクルや社会問題について考えたことがありますか。衣服は身近な存在ですが、普段生活していると見落としてしまう問題もあると思います。この講座では、開発教育協会作成・出版の『服・ファッション—開発教育アクティビティ集5』を使用し、衣服のライフサイクルと大量生産・消費・廃棄の問題について考えるワークショップを行います。ぜひこの機会に衣生活を見つめ直しませんか？

日程 9月30日(土) 14:00～16:00

会場 愛生館サロン (愛生館ビル6F・南側奥)

参加費 500円

ファシリテーター 藤女子大学プロマネ専修エシカルチーム 押見梨沙、竹生理彩

藤女子大学人間生活学科プロジェクトマネジメント専修エシカルチームでは、「衣服と社会問題を結び付け、豊かな消費行動を広めます」というミッションのもと、エシカルな消費行動を認識できる場をつくる活動をしています。



c. アイヌ語と縄文語



会場

アイヌ語は、『広辞苑』は「系統は不明」、『大辞泉』は、「系統について諸説ある」と説明している。これまで数多くのアイヌ語を研究する人はいたが、未だに国語辞書のような説明になっている理由は、アイヌ語と日本語との比較が不足している証左である。この二回の講座を通して、多くの語例からアイヌ語が縄文人が話していた言葉、すなわち、「縄文語」(日本語の基底)であることを証明したい。

日程 10月7日(土)、8日(日) いずれも14:00～16:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 2回通し 一般2,000円 会員1,600円 25歳以下800円
(1回のみ 一般1,500円 会員1,000円 25歳以下500円)

講師 小山正(こやまただし)

1945年、岡山市生まれ。現在、広島市在住。広島銀行勤務(1969-2000)、財務省中国財務局勤務(2000-2006)。『古代への道』(2007)、『古代への道2』(2010)を発刊。2008年以降、広島市にて生涯学習講座「古代への道」を主宰。



10月7日(土) 前編

アイヌ語との出会い/ アイヌ語と日本語の合致

- アイヌ語との出会いは、郷里の岡山県新見市教育委員会発行の『哲西の方言』にアイヌ語と同音同意語が数多くあることを見つけたことである。
- アイヌ語には日本語と合致する表現がある。

10月8日(日) 後編

日本語の変化/アイヌ語と地名

- アイヌ語と日本語とが「違う」と感じるのは、アイヌ語が、古い時代のままで使用されているのに対して比較する日本語が漢字の影響を強く受けて大きく変化しているからである。
- 本州以南の地名にも、アイヌ語と同じ表現が使われている。

d. 後志地方のアイヌ史をめぐる バスツアー



普段、あまり話題にのぼらない後志のアイヌ史。当然、ここにも長いアイヌの歴史があります。昨年のオタルナイアイヌ、高島アイヌに続き、オシヨロアイヌとヨイチアイヌの歴史を、バスに乗りながら、史跡を訪ねてみましょう。

日程 10月15日(日) 9:00～17:00

集合 8:30 JR札幌駅北口団体バスターミナル ※札幌駅東側コンコースより北口を出て屋外です。

参加費 5,000円(バス代、ガイド代、入館料を含む) ※現地にて徴収します。(定員45名)

ガイド 平山裕人(ひらやまひろと)

1958年、小樽市生まれ。現在も小樽市在住。1981年から38年間、小学校教員を続け、現在は自宅で歴史を教えたり、苦手学習を教え、「学び」のおもしろさを伝えようとしている(コロポックル学びの家)。歴史を知って、考え、どう生きるべきかを多くの人にとらえてほしいと思っている。

行程(案)

札幌駅～(高速)～小樽臨港線～運河公園(手宮)トイレ休憩～高島海岸線、祝津へ～赤岩・山周りでオタモイ方面～国道5号線～(塩谷で)フルーツ街道～余市フゴッペで5号線、小樽忍路湾へ～フゴッペ洞窟(有料)～余市駅周辺(各自昼食)～上余市運上屋(有料)～余市水産博物館(有料)～余市から高速、札幌へ(バス内、各自自己紹介・感想)～札幌駅解散

申込方法 moshikomi@sapporoyu.org宛に「後志アイヌ史ツアー参加希望」のタイトルで、お名前、ご住所、電話、メールアドレスをお知らせください。

在日コリアン ドキュメンタリー映画上映会

関東大震災ドキュメンタリー

- 日程 10月7日(土) 13:30開演
- 会場 北海道自治労会館(札幌市北区北6西7)
- 参加費 二本通し1,500円、一本800円
- 上映作品
「隠された爪跡」(1983年、58分) 呉充功監督
「払い下げられた朝鮮人」(1986年、53分) 呉充功監督

主催 ドキュメント関東大震災を見る会
協力 さっぽろ自由学校「遊」



BC級戦犯ドキュメンタリー

- 日程 11月18日(土) 13:30開演
 - 会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F南側奥)
 - 参加費 500円
 - 上映作品
「朝鮮人BC級戦犯の記録」(1996年、62分) 制作:本橋雄介 日本映画学校卒業制作作品
「戦後補償に潜む不条理—韓国元BC級戦犯の闘い」(2007年、27分) 制作:法政大学鈴木靖ゼミ
- 共催 さっぽろ自由学校「遊」
茶門セミナー・ハンマダン



※p.7に関連講座掲載

01. Let's Talk! 世界と出会う、英語



オンライン

簡単な英単語と文法を使って、グローバル社会に関連する記事を通じてリスニングとスピーキングスキルを向上させましょう。マルチリンガルで経験豊富な講師が指導いたします。また、講師は日本語も堪能ですので、英語がわからない場合は日本語で質問することもできます。安心して学べる環境を提供いたします。英語がまったくできないということは問題ありません！参加するだけで、楽しみながら学ぶことができます！さらに、定期的なオンラインセッションで多国籍のゲストと直接学ぶことができますので、クラスで学んだことを現実的な状況で活用する機会があります。オンライン形式なので、どこからでも参加できます！話し合いのレベルはクラス平均レベルに合わせています。学ぶことが楽しいことが一番大切です！過去にレッスンに参加してくれた方々の国はインド、セルビア、スリランカ、ブルガリア、南アフリカ、グルジア、ベトナム、トルコなど。次はどこの国から来てくれるかは楽しみに！

日程 10月23日(月) 開講
後期 10回(～3/25)
第二・第四月曜 19:00～20:30

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

定員 10名 (最少催行5名)

受講料 一般 17,000円 会員 16,000円
25歳以下 14,000円
*体験(1回のみ) 1,000円

講師 アンドレス・パトリシアン
フィリピン出身

皆様へ～メッセージ～

Hi! I'm Patrick and I've been teaching English in Japan for more than 10 years. In this class, we enjoy learning from each other. Social distance may physically keep us apart but with technology, we can still get connected and learn together from a distance. Join this class and enjoy learning English from people around the world!



Patrick

02. タシハンボン / もういちど ハングル



オンライン

さまざまな言葉が街中に戻りつつあります。ハングルを耳にする機会もまたふえてきました。そこで、文字を読むところまでは進んだけれど、その先が…などと言う方たちも、ご一緒しませんか？「タシハンボン / もういちどハングル」講座です。

日程 10月12日(木) 開講
後期 10回(～2/22)
第二・第四木曜 19:00～20:20

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

定員 10名 (最少催行5名)

受講料 一般 17,000円 会員 16,000円
25歳以下 14,000円
*体験(1回のみ) 1,000円

講師 コ・ソングョン
北海道大学大学院 文学院



～講師からのメッセージ～

みなさん、韓国語を聞いたことはあるでしょうね。知っている韓国語はありましたか。お隣の韓国の人々はどのような考え方をしているのか、またどう暮らしているのか。私と一緒に韓国語を学びながら韓国と韓国人の色々な面を覗いてみませんか。楽しく学んでいきましょう！

안녕하세요

03. 日本の植民地主義を考える — 共につなぐ未来のために part 2



会場 & オンライン

日本は、朝鮮半島と台湾を植民地とし、15年という長い戦争を継続しました。アジア太平洋戦争では侵略していった多くのアジアの人々や女性たちの尊厳を傷つけたまま、戦争と植民地支配の謝罪も清算も行っていない。今私たちはアジアをはじめ様々な背景を持つ人たちと共に暮らしています。しかし、朝鮮学校無償化除外や入管法改悪、徴用工問題、日本軍性奴隷制被害問題などに見られる日本政府による制度的差別、構造的な排除、社会状況は、侵略戦争と植民地支配の未清算と無関係とはいえません。関東大震災から100年、過去は今に続いています。

日程 10月2日(月) 開講 全5回 月1回 第一月曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し 一般 5,000円 会員 4,000円 25歳以下 2,000円

(単発 一般 1,500円/回 会員・オンライン 1,000円/回 25歳以下 500円/回)

コーディネーター 曹金時江(チョキム シガン) 茶門セミナー・ハンマダン、ギャラリー茶門主宰
本庄十喜(ほんじょうとき) さっぽろ自由学校「遊」理事 <第2回担当>

10月2日(月) 第1回

関東大震災、証言から見えてくるもの

●西崎 雅夫(にしざき まさお)
一般社団法人ほうせんか理事

1982年に東京の東部で始まった、関東大震災で虐殺された朝鮮人の遺骨発掘を目的とした市民運動に当時大学生の私も参加。結局遺骨は発見できなかったものの、長年の成果として2009年に墨田区八広に追悼碑を建立。関東大震災事件については公式資料がほとんどないため、多くの民間資料を集め事件の実態を伝えようとしている。

※p.5に関連上映会掲載

アボジ、オモニ渡日。両親とも全羅北道金堤郡の農村出身。日本女性との結婚問題(結婚差別)。義母の自殺未遂事件。義父の「帰化」要請。「帰化」時の「日本的氏名」強要。「10指指紋捺捺強制」民族名を取り戻す闘い。10指指紋捺捺返還訴訟。京都の「君が代訴訟裁判」証人陳述と娘の作文。「大嘗祭違憲訴訟」1990年原告団参加。京都「主基田抜穂の儀」違憲訴訟 2020年原告参加。

2月5日(月) 第4回

朝鮮戦争

●金 敬黙(キム キョンモク)
早稲田大学文学学術院教授。グローバルアジア研究の(平和研究)専門

朝鮮戦争は、1950年に始まり1953年7月に休戦協定が結ばれた朝鮮半島で起こった戦争です。日本の戦後復興の足がかりとなり、南北分断を決定づけたこの戦争は、戦後復興だけでなく様々な面で日本も深くかかわり今に続いています。講座では、日本とのかかわりを中心に、朝鮮戦争を紐解き、アジアで世界で戦火を繰り返さない道筋を考えてみたいと思います。

3月4日(月) 第5回

民族学級にかようこと、言葉と歴史を学ぶことの意味

●進行: チョキム、民族学級の保護者、他複数予定

日本に生まれ、育ち日本の社会の中でよくも悪くもどっぷりつかり。歴史やルーツの言葉を話せなくても、それでも韓国・朝鮮の国籍を持つ人たちが、国籍にかかわらずルーツを大事に考える人々は少なくない。自身のアイデンティティを大事に考えるとき、言葉や歴史はどんな意味をもつのか。参加の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

11月6日(月) 第2回

なぜ、朝鮮人が戦犯になったのか

●内海 愛子(うちみ あいこ)
(一社)新時代アジアピースアカデミー共同代表。著書「朝鮮人BC級戦犯の記録」(2015年、岩波現代文庫)

「ポツダム宣言」一戦争裁判の実施。極東軍事裁判一植民地支配は審議の対象外。被告の中に元朝鮮総監や元朝鮮軍司令官がいたが一。BC級戦犯裁判一捕虜虐待、戦時性暴力など「通常の戦争犯罪」を裁く。朝鮮人は「日本人」として裁かれ、148人が戦犯に。対日平和条約一「判決」を承認し、朝鮮人を「日本国民」として拘留し続ける。戦争裁判一植民地支配、連合国の戦争犯罪を不問にしてきた。

※p.5に関連上映会掲載

12月4日(月) 第3回

私にとつての天皇制

●朴 実(パク シル)
在日朝鮮人2世。京都東九条 CAN フォーラム代表。音楽家

04. 札幌オリパラを考えよう part 2



会場 & オンライン

市民の声はなぜ無視されるのか？春の札幌市長選では、オリパラ候補が4割以上を得票、出口調査の6割が招致反対と答えた。市長は選挙中「立ち止まって考える。」と言っていたが、「2030、2034、2038…」と言い出している。なぜ立ち止まれないのか？なぜ引き返せないのか？市民は市長へ公開質問状を提出したが、まともな返答はなく、住民投票の直接請求を始めようとしている。オリパラ検討委員会、市議会、市の説明会、市長は、いずれも招致ありきで進んでいる。みなさんとともに考えたい。

日程 10月3日(火) 開講 全3回 月1回第一火曜 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般3,000円 会員2,400円 25歳以下1,200円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター さっぽろオリパラを考える会

10月3日(火) 第1回

オリパラ決定に我々の声を

●さっぽろオリパラを考える会

この講座を始めてまる1年たちました。この1年間、様々な情勢の変化があり、我々考える会メンバーも行政や市民に我々の声を届けてきました。参加者全員で今後の方向を考えます。

11月7日(火) 第2回

オリパラ誘致に見る代表民主政治の病理

●神原 勝(かんばん まさる)

北海道大学名誉教授(専攻・自治体学)

五輪理念の崩壊、商業主義の支配、不正事件の続発、巨額の費用負担、他の政策課題との不均衡。そうした市民の疑念をよそに市長と市議会は誘致にひた走る。市民意思を無視する自治体政治の現実をみて、代表民主制と直接民主主義の問題性をあらためて問う。

12月5日(火) 第3回

市民自治と住民投票

●高橋 大輔(たかはし だいすけ)

昨年末まで某大手通信会社に勤務、消費生活アドバイザー

札幌オリパラ招致の是非を問う住民投票の求めに対し、市長も市議会も背を向けてきました。他の自治体の事例紹介も交えて、住民投票という手段が間接民主制の欠陥を補うものであることを分かりやすく解説します。



<「遊」のプロジェクト>

森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト

文献調査や聞き取り調査を通して、アイヌの土地・領域・自然資源に対する諸権利を、過去150年間の北海道各地の自然環境の変化に即して可視化し、発信していきます。(関連講座 p.17)

<https://kim-pet-rep.sakura.ne.jp/>

SDGs・北海道メジャーグループプロジェクト

国連が「持続可能な開発」を議論する際に設定しているメジャーグループを参考に、持続可能で公正な社会づくりを地域で進める上で、多様な主体の声を反映させていこうと2020年に立ち上げたプロジェクトです。

※各プロジェクトに関心のある方は、「遊」事務局までお問合せください。syu@sapporoyu.org

05. マイナンバー制度を考える



会場 & オンライン

「マイナンバー制度」と言えば、監視社会の強化が思い浮かぶ。しかしデジタル社会化と結びつくこの制度は、単に為政者が市民の監視を強めるというだけではない。デジタル社会という仕組み自体が地方自治の力を弱め、国が直接国民を支配していく方向が強まるという懸念があるようだ。すでに動き始めている制度であるが、何が問題の核心なのかを学び、よりよい市民社会の創出の力としたい。

日程 10月5日(木) 開講 全5回 月1回第一木曜 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 雨宮 恭子(あまみや きょうこ)「遊」理事・趣味は畑仕事

横田 恒一(よこた こういち)「遊」会員、遊HP・FB担当

参考図書 『デジタル改革とマイナンバー制度～情報連携ネットワークにおける人権と自治の未来』稲葉一将・内田聖子

『デジタル改革と個人情報保護のゆくえ～「2000個の条例リセット論」を問う』庄村勇人・中村重美

『自治体DXでどうなる地方自治の「近未来」～国の「デジタル戦略」と住民の暮らし』本多滝夫・久保貴裕

『デジタル化でどうなる暮らしと地方自治』白藤博行・自治体問題研究所 以上4冊自治体研究社

『何が問題かマイナンバーカードで健康保険証廃止』黒田充 日本機関紙出版センター

10月5日(木) 第1回

マイナンバー制度とは？

●稲葉一将(いなば かずまさ)

名古屋大学大学院法学研究科教授

2001年小泉政権下で構想、2011年民主党政権下で基本方針提示、2013年自公安倍政権下で関連4法案が可決、2015年マイナンバー法が施行という歴史を持つマイナンバー制度。その歴史と本質に迫ります。

11月2日(木) 第2回

マイナンバー制度の拡大と地方自治の未来

●稲葉一将(いなば かずまさ)

名古屋大学大学院法学研究科教授

2021年に制定されたデジタル改革関連法により、情報管理の一元化が進められた。デジタルを大義名分にこれまで自治体が築いてきた憲法的価値がないがしろになる「改革」が進めようとしているのでは？

12月7日(木) 第3回

市民にとっての望ましいデジタル社会とは？

—海外の市民運動と自治体に学ぶ

●内田 聖子(うちだ しょうこ)

アジア太平洋資料センター(PARC) 理事

マイナンバー制度をはじめとして国・自治体のデジタル社会への移行が声高に叫ばれています。しかし課題も多くあがっています。「市民主体の市民のためになるデジタル化とは…？」海外の事例も学びながら考えます。

1月11日(木) 第4回

マイナンバーカードをめぐる問題

—保険証との一体化の問題、他の紐づけの問題

●齋藤 耕(さいとう こう)

弁護士

マイナ・カードと保険証や免許証などの一体化の仕組みと問題を考えると、各種情報が紐づけられることで個人情報保護上のような問題があるかを掘り下げて考えます。

2月8日(木) 第5回

マイナンバー制度についての私たちの疑問

—私たちの目指す社会の姿

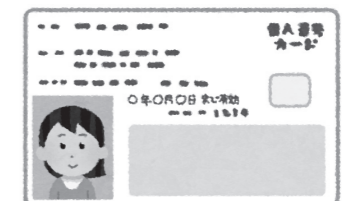
●雨宮 恭子(あまみや きょうこ)

さっぽろ自由学校「遊」理事・趣味は畑仕事

●横田 恒一(よこた こういち)

さっぽろ自由学校「遊」会員、遊HP・FB担当

連続講座参加者の方から話題提供していただき、コーディネーターが中心になって今回の連続講座で出てきた問題について全員で話し合い、今後の方向をさぐります。



06. ベーシックインカムを再考する —生活保障と脱成長との関係から



オンライン

最近、日本でも再びベーシックインカムが注目されている。諸外国では、イタリアは、2019年4月、スペインでは2020年6月より導入され、フランス、ドイツでも導入が検討されている。日本国内でもコロナ禍の経済的対策として、2020年に特定給付金として、現金10万円が国民に給付された。その後、継続して低所得者層や子育て世代を対象とした数回の現金給付が続けられている。また、近年の竹中氏の発言に始まった問題を契機として、ベーシックインカムが再び議論されている。さらに、資本主義下の地球環境の問題から、脱成長コミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカム、ベーシックサービス、ベーシックアセットも議論され始めている。本講座では、ベーシックインカムの基本や我が国での導入案、ベーシックインカム運動史、生活保障（＝社会保障＋雇用問題）や脱成長との関連を総合的に検討しながら日本での導入を検討していくことにしたい。

日程 10月6日(金)開講 全5回 月1回金曜 19:00～21:00

会場 オンライン開催 (zoom使用)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円
(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下400円/回)

コーディネーター 樋口 浩義 (ひぐち ひろよし)

東京都生まれ。岩手県立盛岡短期大学(現岩手県立大学)専任講師、助教授をへて、水戸短期大学准教授、教授(その後退職)。公会計学に関心を持ち、政府予算管理の立場からベーシックインカム論を研究中。現在、日本ベーシックインカム学会理事長。山中鹿次との共著『ベーシックインカムを再考する—生活保障と脱成長との関係から—』(Kindleダイレクト出版)。



10月6日(金) 第1回

ベーシックインカムとは何か

●樋口 浩義 (ひぐち ひろよし)
日本ベーシックインカム学会理事長

ベーシックインカムの基本的な考え方を説明し、わが国でのいくつかの導入パターンについて、財源から実現可能性を考察する。併せて、財源は税収によるべきかMMTによるべきかについても検討する。

11月3日(金) 第2回

ベーシックインカム井戸端会議 —生きづらさを考える

●細谷 洋子 (ほそや ようこ)
さっぽろ自由学校「遊」共同代表
●俵屋 年彦 (たわらや としひこ)
さっぽろ自由学校「遊」理事

現在の日本社会の「生きづらさ」を考えながら、ベーシックインカムについて井戸端会議風に語り合います。

12月1日(金) 第3回

ベーシックインカム運動史

●山中 鹿次 (やまなか しかつぐ)
日本ベーシックインカム学会関西地区担当理事

我が国を中心にベーシックインカム運動の歴史について振り返る。

2月2日(金) 第4回

ベーシックインカムの導入と 生活保障と労働問題

●山中 鹿次 (やまなか しかつぐ)
日本ベーシックインカム学会関西地区担当理事
ベーシックインカム導入がもたらす生活保障と労働問題への影響について検討する。

3月1日(金) 第5回

コミュニズムのコモンズとしての ベーシックインカム

●樋口 浩義 (ひぐち ひろよし)
日本ベーシックインカム学会理事長
資本主義の未来としてのコミュニズムのコモンズとしてのベーシックインカムを考える。

07. 老いと向き合う part 10



会場

最近の日本は、65歳以上の高齢者が全体の約30%を占めています。約3分の1の人々が「老い」と実際に向き合うこととなります。老いは誰にでも訪れる問題ですが、いたずらに不安に捉えられるのではなく、自分らしく老いの日々を過ごしたい、そんな老後の暮らしを語り合います。

日程 10月6日(金)開講 全6回 月1回金曜 14:00～16:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) ほか

参加費 通し2,500円(単発600円/回)

コーディネーター 田畑 豊 (たばた ゆたか) さっぽろ自由学校「遊」会員
伊藤 恒雄 (いとう つねお) さっぽろ自由学校「遊」会員



10月6日(金) 第1回

リビングウィル(Living will)について 知ろう!

●岡田七枝 (おかだ ななえ)
日本尊厳死協会北海道支部理事・行政書士

あなたは何もわからなくなっても、苦痛を伴う医療を受けて、延命されたいですか?リビングウィル(生前の意思)を残すことで、延命措置などに対する意思を残しておくことができます。

11月3日(金) 第2回

民生委員のお仕事

●若月 久美子 (わかつき くみこ)
東区民生委員

「孤独死」などに象徴されるように、最近、地域社会での高齢者を中心とする孤立が問題になっています。普段あまり知られていない民生委員の方々の地域での役割や苦勞を聞き共に考えます。

12月8日(金) 第3回

終の住処を考える

●桜谷 妙子 (さくらや たえこ)
旅行好きの70代
●成田 好江 (なりた よしえ)
中国時代劇ドラマの美男スターにハマっている

人生の最後を迎える時まで、どのように過ごしたいでしょうか。最後に向かう日々を心穏やかに過ごす「終の住処」には、何が必要でしょうか。自宅で最後まで暮らすか、施設に入所するか…それぞれの「終の住処」に求めるものを具体的に語り合いたいと思います。

1月5日(金) 第4回

交流会

前半3回の講座を振り返り、講座の中で話したりなかったこと、日頃から「老い」について気になっていること等を自由に交流します。

2月2日(金) 第5回

介護保険制度の改悪を読み解く

●巻淵 悠 (まきぶち ゆう)
サービス付き高齢者向け住宅勤務

「史上最悪の介護保険改定?!」(岩波ブックレット 上野千鶴子・樋口恵子共著)をテキストに、最近の介護保険制度改悪の動きを学習します。

3月1日(金) 第6回

地域とつながる

—コミュニティ・カフェ「ふうしゃ」の見学

●大西 由記子 (おおにし ゆきこ)
札幌市介護予防センター西町 相談主任「ふうしゃ」スタッフ
社会福祉法人宏友会主催の【コミュニティ・カフェ ふうしゃ】は2023年2月で丸9年が経ち地域の居場所として、様々な世代の方のよりどころとして子ども食堂や高齢者サロン、各教室や音楽会など様々な用途で地域の方々に親しまれています。

◇集合場所「ふうしゃ」 TEL 090-1730-8757

札幌市西区西野南 21 丁目 2-15 第一ワコービル 1 階
☆地下鉄「宮の沢」駅から 500 m (徒歩 7 分) バス停「宮の沢 2 条 1 丁目」から 28 m (徒歩 1 分)

地下鉄「宮の沢」駅前から JR バス「宮 43」中州橋行、「宮 50」宮の沢 3 条 5 丁目行、「西 21」西 28 丁目駅前行が出ています。

◇集合時間 13:50

08. なぜイギリス・EUで学ぶのか — 1年以上滞在してみえてきたことは？



オンライン

留学？海外でお仕事！言語も文化も歴史も違う場所で新しい生活を始めることは、簡単ではありません。日本の高校を卒業して大学へ進学、社会人経験をしてから大学院への進学や海外移住を達成した方。様々な想いを胸に一筋縄ではいかぬ人生を歩み続けている皆さんのお話を私だけが聞かせてもらっているのはもったいないです。欧州の学習や暮らしの様子を知ることに加え、私が影響を受けた人たちに会ってみませんか。

日程 10月7日(土) 開講 全5回 月1回土曜 19:00 ~ 21:00

会場 オンライン開催 (zoom 使用)

参加費 通し 一般4,000円 会員3,500円 25歳以下2,000円
(単発 一般・会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 大崎美佳 (おおさき みか)

酪農学園大学生命環境学科を卒業後、国際交流・協力の推進、環境保全に向けた地域の課題解決の対話の場づくりを行う。英国・シューマツハカレッジにて環境も福祉も向上する新しい経済学を修了。現在、余市町のエコビレッジにて教育プログラムのコーディネートを担当。



10月7日(土) 第1回

ガーデンデザインからまちづくりまで、
ランドスケープ・アーキテクチャという
分野で学んでいます

●林和沙 (はやし かずさ)

英国・ニューカッスル大学大学院、ランドスケープ・アーキテクチャ修士

北海道大学大学院農学院を卒業後、2つ目の修士号に取り組み和沙さんより英国での自然や環境に対する考え方や大学院での学びについてお話いただきます。

11月4日(土) 第2回

栄養・食事をテーマに公衆衛生向上を
目指し研究しています

●鈴木友理 (すずき ゆり)

オランダ・ワーヘニンゲン大学院

札幌市内の高校を卒業後、オランダの大学へ進学し現在修士号に挑戦している友理さんより、身体や心の健康と食の関係性や大学院での学習方法についてお話いただきます。

12月2日(土) 第3回

ベルギーを中心としたヨーロッパの
歴史や文化を学んでいます

●井戸静星 (いとしずほ)

ベルギー・ブリュッセル自由大学

札幌市内の高校を卒業後、語学学校に通ったりエコビレッジでボランティアをしたりしながら正規留学の準備を進めた静星さんから、欧州の歴史の複雑さやおもしろさ、大学の厳しさについてお話していただきます。

2月3日(土) 第4回

日本の気候変動対策が遅れていると
同僚に言われて悔しい

●杉岡李乃 (すぎおか りの)

英国・サセックス大学院修了後、ロンドンの独立系気候変動シンクタンクに勤務

環境保全や国際協力の分野に従事した経験を活かし、長年の夢であった留学に挑戦した李乃さんからイギリスやヨーロッパでの気候変動・エネルギー転換の議論、日本はどのように見られているのかなど、同僚や仕事関係者からの声も含めてお話いただきます。

3月2日(土) 第5回

イギリスで日本の食文化を広めるために
日々奮闘しています

●常井美幸 (とこい みゆき)

英国・シューマツハカレッジの有機栽培/園芸コースを修了し、同学校と同じ町トットネスに暮らす

東京でテレビ番組ディレクター/映画監督として20年従事したあと、食の大切さ、日本伝統食の素晴らしさに気付き、季節に合った食事をとるマクロビオティクを学んだ美幸さんより、英国と日本の食文化の違いや日本食の英国での受容などについてお話いただきます。

09. 越境する人と文化を通して読み解く 東アジア VI — 地域から多文化共生を考える



会場 & オンライン

本講座は、2021年度にスタートした連続講座です。2023年度も越境する人と文化を通して東アジアを読み解き、ローカル地域に焦点を当て東アジアの多文化共生について考えます。具体的には、比較の視点を取り入れて、ローカルとグローバルを結ぶ人と文化(食、音楽、スポーツなど)に着目し、日中韓のそれぞれ一つの地域を取り上げます。講座では文献資料と映像資料を用いるほか、フィールドワークを通して得た研究結果から現場の声を適宜紹介します。

日程 10月10日(火) 開講 全3回 隔月第二火曜 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し 一般3,000円 会員2,400円 25歳以下1,200円
(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 朴仁哲 (ぼくじんてつ)

中国黒竜江省生まれ、1997年来日。1999年から通訳・翻訳者として日中韓に関わって、草の根の交流を行っています。北海道大学教育学博士。多文化共生・国際交流研究事務所所長、特定非営利活動法人社会理論・動態研究所研究員。専門は外国語教育、東アジア地域研究、人の移動と移民研究、多文化共生・国際交流研究など。
HP: <https://sapporobc.wixsite.com/officeyou>



10月10日(火) 第1回

中国河北省(カホクショウ)を事例として

河北省は中華民族発祥地の一つで、中国雑技や中国武術の故郷でもあります。また、河北省には甘栗の産地が集中しており、日本にも輸出されています。日中戦争期に戦地となった地域も多くあります。雑技・武術や食文化、戦争などをキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

橋湛山、さらに将棋棋士の米長邦雄らがいます。山梨県出身とゆかりがある人物を通して、東アジアを読み解いていきます。

2月13日(火) 第3回

韓国全羅北道(チョルラブクト)を事例として

全羅北道は、韓国の南西部に位置しており、食文化と伝統芸能の宝庫とも呼ばれています。また戦前、多くの日本人が暮らし、日本と中国東北地域へ多くの移住者を送り出した地域でもあります。食文化や伝統芸能、そして移民などをキーワードに、東アジアを読み解いていきます。

12月12日(火) 第2回

山梨県を事例として

山梨県出身の著名人には、浅川伯教と実弟の浅川巧、石

10. 中国語で読み解く東アジア — 連鎖(つながりの)視点を以て



会場 & オンライン

本講座を、「越境する人と文化を読み解く東アジア」の姉妹編と位置付け、中国語を学ぶだけではなく、連鎖(つながりの)視点を以て、中国語を通して東アジアの歴史と文化の一端を読み解いていきます。講座毎に越境する人や食、さらに文化に関わるいくつかのキーワードを提示します。そのキーワードの中国語の発音指導を行なった後、そのキーワードに沿って講座を進めていきます。

日程 11月14日(火)、2024年1月9日(火) 18:45 ~ 20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 2回通し 一般2,000円 会員1,600円 25歳以下800円
(1回毎 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 朴仁哲 (ぼくじんてつ) 多文化共生・国際交流研究事務所所長



11. 20世紀を切り開いたアイヌ列伝

part 4



会場 & オンライン

知里幸恵の『アイヌ神謡集』が出版されて100周年の2023年8月、岩波文庫から、中川裕さんが最新の研究成果をふまえて補訂した新版が出た。9月、知里幸恵フォーラムは「これからの100年」と題して登別市民会館大ホールで開催された。先駆者たちの遺産を次世代へきちんと継承し、21世紀を切り開きたい！

日程 10月11日(水)開講 全6回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

参加費 通し 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 長岡 伸一 (ながおか しんいち)

2022年度は”核のゴミ”講座に2回登壇し、33年前の泊原発関連のテレビ番組取材体験を報告した。

10月11日(水) 第1回

違星北斗

●平山 裕人 (ひらやま ひろと)

1958年小樽市生まれ、アイヌ史研究者

アイヌの民族運動のパイオニア・違星北斗(いぼしほくと 1901～1929)。余市という環境と、大正デモクラシーの時代と、さまざまな出会いが、短歌うたう民族運動家を育てた。北斗の残した短歌と記録から、彼の人生をたどる！



11月8日(水) 第2回

「アイヌ新聞記者」高橋真

●竹内 渉 (たけうち わたる)

元北海道アイヌ協会事務局長

1940年に帯広で新聞記者となり、1946年に「アイヌ新聞」を創刊し、最終号である1947年の14号まで、ほぼ一人で編集発行した「アイヌ新聞記者」高橋真(たかはしまこと 1920～1976)について語ります。



12月13日(水) 第3回

詩人・思想家・作家・翻訳家 ・史家で活動家の新谷行

●竹内 渉 (たけうち わたる)

元北海道アイヌ協会事務局長

『アイヌ民族抵抗史』によりアイヌ史の記述を一変させた新谷行(しんやぎょう 1932～1979)は、親しい知人からも「和人(シャモ)の一人」と思われていた。生い立ちから没後まで語ります。



1月17日(水) 第3回

福祉活動から民族活動へ 野村義一

●竹内 渉 (たけうち わたる)

元北海道アイヌ協会事務局長

最初、無理矢理アイヌ協会の役員を押しつけられ、そして自らの意志で理事長になり、32年間アイヌ民族の先頭に立ち奮闘した野村義一(のむらぎいち 1914～2008)について、映像史料なども使って語ります。



2月14日(水) 第5回

「列伝」全20回を復習したい！

●長岡 伸一 (ながおか しんいち)

全国の熱心な受講者の皆さんから叱咤激励を浴び、この連続講座は早くも通算20回。記憶に深く刻まれたあの講師の名言&新しい知見&論点の数々を掘り直し、初めて訪れる人たちにもわかりやすく共有をめざします。

3月13日(水) 第6回

父・萱野茂

●萱野 志朗 (かやの しろろ)

萱野茂二風谷アイヌ資料館 館長

日本社会党の参院比例代表候補11位の萱野茂(かやのしげる 1926～2006)が1994年8月4日付で、繰り上げ当選しました。アイヌ民族初の国会議員の誕生となりました。奇しくも部落解放同盟出身者の松本英一氏が94年7月19日に亡くなったの繰り上げ当選でした。そして任期1期(6年のうち残り4年)限りの政界引退まで、一番近くで目撃した激動の日々を、今こそ振り返り、未来を展望します。



12. 言葉から考える 琉球・沖縄の植民地化



会場 & オンライン

言葉はその土地、風土、文化と切り離すことはできない。1872年琉球併合後、生活風俗を日本風に改め様とする運動が熟を帯びてきた。生活の根幹ともいえる言葉(琉球諸語)、名前も琉球的なものは日本風にかえ、日中戦争の開始に伴っては「標準語励行運動」が懲罰的による強制指導が沖縄戦後時代まで展開される。長く言葉・文化を否定された事の「精神の植民地化」は、日本への同化政策が進み、沖縄ではいまだその分断を引きずっている。

日程 10月13日(金)開講 全5回 月1回 第二金曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 渡名喜 隆子 (とうなち たかこ) 沖縄の基地を考える会・札幌

10月13日(金) 第1回

ウチナーで日本語を話している事は 当たり前？

●知念 ウシ (ちねん うし)

沖縄国際大学・沖縄キリスト教大学院大学非常勤講師。むぬかちや。著書に「ウシがゆく」(沖縄タイムス社)ほか。

琉球の日本併合から、沖縄戦前後においても「標準語励行運動」の強制指導が行われた。琉球諸語を失わせる同化政策は民族の否定につながる。言語の問題を歴史的視点で考える。

12月8日(金) 第2回

琉歌、映像から見る琉球諸語

●知念 ウシ (ちねん うし)

沖縄国際大学・沖縄キリスト教大学院大学非常勤講師。むぬかちや。著書に「ウシがゆく」(沖縄タイムス社)ほか。

言葉は社会との関係性が映し出される。うちなー(沖縄)はそもそもの固有名詞が変えられ、文化が変えられた。今回、ウチナーグチからうちなーの文化を理解し、ウチナー思想を考える。



1月12日(金) 第3回

同化教育から見える人類館問題

●金城 馨 (かなぐすく きんじょう かおる)

関西沖縄文庫主宰、「がじまるの会」創設メンバー。著書に「沖縄人として日本人を生きる」ほか。

立派な日本人となるための同化教育のもと、自らの文化を「異種異様な習俗」として卑下する知識人。人類館展示からみえる同化教育と差別の序列化。

2月9日(金) 第4回

無意識の植民地主義 1

●野村 浩也 (のむら こうや)

広島修道大学教授(社会学)。著書に「無意識の植民地主義」(松籟社)ほか。

悪魔の島から聞こえる他者の声、そして日本人。植民者の文化への爆弾。

3月15日(金) 第5回

無意識の植民地主義 2

●野村 浩也 (のむら こうや)

広島修道大学教授(社会学)。著書に「無意識の植民地主義」(松籟社)ほか。

日本人と無意識の植民地主義。愛という名の支配。沖縄人は語り続けてきた。

13. ワークショップで共に学ぶ —世界と「北海道」の開発・多様性・未来



会場

近代の「開発」は経済成長をもたらしつつも、その恩恵は平等に分配されず、自然環境を破壊し、人権や文化の多様性をないがしろにしてきました。この講座では、世界、東南アジア、そして、日本と「北海道」を事例に、ワークショップ形式で現状を学び、よりよい社会のあり方を考えます。参加者同士で話し合い、考えながら、お互いの経験や気づきを聞き合うことを重視します。学生・初心者の参加を歓迎します！

日程 10月14日(土) 開講 全5回 月1回第二土曜 14:00～16:30

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

定員 各回25名

コーディネーター 川合 蘭(かわいらん) 北海道大学大学院生

八木 亜紀子(やぎ あきこ) さっぽろ自由学校「遊」、開発教育協会(DEAR)

協力 開発教育協会(DEAR)

※一部、開発教育協会(DEAR)および立教大学ESDセンターの教材を使用します。



10月14日(土) 第1回

ワークショップ

「世界がもし100人の村だったら」

●川合 蘭(かわいらん)&八木 亜紀子(やぎ あきこ)

この世界のどこかに生きる「誰か」になって、体を動かしながら、世界の多様性と格差を体験するワークショップです。世界が今のような社会になっている背景にある歴史や構造にも目を向けてみます。

11月11日(土) 第2回

これって「地球にやさしい」の？

東南アジアの熱帯林から

●黒田 峻平(くろだ しゅんぺい)

北海道大学農学部学生

●八木 亜紀子(やぎ あきこ)

マレーシアやインドネシアで生産される植物性油脂の「パーム油」は、「地球にやさしい」というイメージのもと、日本でも広く使われています。生産地の状況を「北海道」の開発にも重ね合わせて学んでいきます。



12月9日(土) 第3回

ティフ星人がやってきた！

●渡邊 圭(わたなべ けい) 斜里町立知床ウトロ学校教頭

●八木 亜紀子(やぎ あきこ)

平穏に暮らす「地球人」のもとに「ティフ星人」がやってきた！「ティフ星人」が押し付けてくる無理難題に対応するうちに…。支配する側・される側がどのような感情を抱くのかを疑似体験し、ふりかえります。

1月13日(土) 第4回

シコツの500年

●渡邊 圭(わたなべ けい) 斜里町立知床ウトロ学校教頭

●八木 亜紀子(やぎ あきこ)

江戸時代に「シコツ」と呼ばれた現在の千歳市周辺のアイヌ民族と和人の歴史を、地図上に展開しながら学びます。歴史を共有し、共によりよい未来を考えることを目的としたワークショップです。

2月10日(土) 第5回

わたし・たちにとっての
「豊かな社会」とは？

●川合 蘭(かわいらん)&八木 亜紀子(やぎ あきこ)

第1～4回で学んだことをふりかえりながら、わたし・たちはどんな社会のあり方を望むのかを話し合い、考えます。これから学びたいこと・取り組みたいことも共有しましょう。

14. 先住民族の森川海に関する権利 3 —川とサケとアイヌ民族



会場 & オンライン

さっぽろ自由学校「遊」では、2022年5月より「森・川・海のアイヌ先住権研究プロジェクト」に企画しています。このプロジェクトと連動して開催しているシリーズの part3 では、アイヌ民族と川やサケとの関わりについて紹介し、皆さんと一緒に考えたいと思います。

日程 10月16日(月) 開講 全6回 月1回第三月曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講も可

参加費 通し 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円

(単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回)

コーディネーター 小泉 雅弘(こいずみ まさひろ) さっぽろ自由学校「遊」事務局



10月16日(月) 第1回

川の恵みをいただく
—川魚を使ったアイヌ料理

●熊谷 カネ(くまがい かね)

様似民族文化保存会

様似民族文化保存会を先導し、様似町におけるアイヌ文化伝承活動に大きな役割を果たしてきた熊谷カネさんをお迎えします。サケを使ったアイヌ料理などを実演を交えて紹介頂くとともに、川の恵みをいただきながら生活してきたアイヌの暮らしを語って頂きます。

11月20日(月) 第2回

石狩川—三つの産卵床の今昔

●小坂 洋右(こさか ようすけ)

元北海道新聞編集委員

石狩川には近代以前、上川盆地、千歳川上流、豊平川扇状地のメム(湧き水)という三つの大きな産卵床があった。莫大な再生産力を誇った石狩川流域だが、明治以降の諸政策によってアイヌ民族は川から遠ざけられ、川と人との関係、川を取り巻く「風景」もまた大きく様変わりした。今昔の落差を、川辺を歩き、カヌーで漕いできた実体験を交えながら伝えてもらいます。

12月18日(月) 第3回

浦幌十勝川下流域におけるサケ漁の権利

●差間 正樹(さしま まさき)

ラポロアイヌネイション会長

かつて先祖がサケ漁をしていた浦幌十勝川でのサケ漁の権利を認めさせるため、差間さんらアイヌラポロネイションでは、国と北海道を相手に訴訟を起こしました。その背景やアイヌ民族の権利回復に向けた思いをお聞かせします。

1月15日(月) 第4回

ダム、河川改修による河川環境の変化

●稗田 一俊(ひえだ かずとし)

流域の自然を考えるネットワーク/フリーランスフォトグラファー

ダムや河川改修によって、現在の川は本来の自然状態の川と大きくその姿を変えられてしまっています。その変化がもたらしたのものや、河川を改めて自然状態に近づけるための試みなどを紹介して頂きます。

2月19日(月) 第5回

藻別川流域における開発の歴史とアイヌの権利

●平田 剛士(ひらた つよし)

森川海アイヌ先住権プロジェクト、フリーライター

●小泉 雅弘(こいずみ まさひろ)

森川海アイヌ先住権プロジェクト、「遊」事務局

紋別アイヌ協会では、2019年のカムイチェブノミの際に許可申請をせずにサケ漁を実行し、先住民族の権利としてのサケ漁について問題提起をしました。明治以降、様々な開発に見舞われてきた藻別川ですが、現在は野生のサケが遡上する豊かな川となっています。この川の姿を通して見えてくる様々な問題について考えます。

3月18日(月) 第6回

沙流川流域における
アイヌの自然利用とダム開発の影響

●貝澤 美和子(かいざわ みわこ)

●貝澤 耕一(かいざわ こういち)

平取町二風谷在住

日高地方を流れる沙流川(シシリムカ)流域は、古くからアイヌのコタン(集落)が形成されてきた地域です。アイヌ民族はこの地の自然をどのように利用し、生活してきたのかを紹介頂くと共に、二風谷ダム、平取ダムなどのダム建設による自然環境の変容についてお話し頂きます。

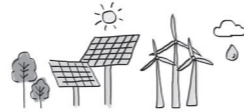
15. このままでいいの？ 再生可能エネルギーの進め方 part 13



会場 & オンライン

気候危機及び生物多様性損失の対策として、脱炭素とネイチャーポジティブ（自然回復）の施策の同時推進は世界的に共通認識となり、環境や人権配慮が強く求められるようになりました。これまでの再エネ導入の問題点を、秋田県・北海道（含石狩湾）の風発事業、海ワシ類のバードストライク、輸入木質バイオマス発電の事例から洗い出し、現在計画中の深海採掘の問題点を探り、「自然回復」への理解を深め、次の世代に自然や住民の人権を引き継ぐにはどうしたらよいか考えていきます。

日程 10月19日（木）開講 全6回 月1回第三木曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可
参加費 通し 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
 （単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）
コーディネーター 佐々木 邦夫（ささき くにお） 風力発電を地域から考える全国協議会共同代表
 糟谷 奈保子（かすや なおこ） 石狩湾岸の風力発電を考える石狩市民の会



10月19日（木）第1回

秋田県内の風力発電事業の課題について

●山下 友宏（やました ともひろ）
 山下友宏出版代表、風力発電の実情取材中

国策として推進されてきた風力発電事業の実態を調査中。秋田県内を中心に住民目線からも取材し、その課題を浮き彫りにする。健康影響、景観を含めたゾーニングについて説明予定。

11月16日（木）第2回

石狩市関連洋上風発を含めた北海道内の風車問題について

●佐々木 邦夫（ささき くにお）
 & 安田 秀子（やすだ ひでこ）
 北海道風力発電問題ネットワーク 代表・副代表

道内の既設・建設中・計画中の風発事業について道北を中心に、また、「有望区域」となった石狩湾一般海域風発計画も含めて、問題点を明らかにします。

12月21日（木）第3回

北海道における海ワシ類のバードストライク

●齊藤 慶輔（さいとう けいすけ）
 猛禽類医学研究所代表、獣医師

北海道ではオオワシやオジロワシのバードストライクが多発し、確認されているだけでも80例以上に及ぶ。被害鳥の状況や衛星追跡調査から明らかになったこと、予防のための取り組みなどをお話します。

1月18日（木）第4回

海を破壊する深海採掘

●田中 滋（たなか しげる）
 アジア太平洋資料センター（PARC）事務局長

エネルギーの安定活用には電気を貯めておくバッテリーが必要不可欠です。しかし、バッテリー材料を巡って世界では様々な環境破壊・人権侵害・文化破壊が横行しています。その一端をご紹介します。

2月15日（木）第5回

問題だらけの輸入木質バイオマス発電

●飯沼 佐代子（いいぬま さよこ）
 地球・人間環境フォーラム企画調査部

木質バイオマス発電は、石炭以上のCO2を排出し、多くは輸入燃料に依存。海外の燃料生産地では森林の減少・劣化や住民の健康被害が起きています。エネルギー自給や地域経済に貢献せず、気候変動を悪化させる「再生可能エネルギー」？一緒に考えましょう。

3月21日（木）第6回

ネイチャーポジティブ達成を阻害する再生可能エネルギー導入

●若松 伸彦（わかまつ のぶひこ）
 日本自然保護協会 保護・教育部 保護チーム室長（風車やリニア新幹線問題について活動）

政府は2050年までに温室効果ガス排出ゼロを目指すことを宣言している。しかし同時に国際社会からはネイチャーポジティブ達成も求められている。再生可能エネルギー導入がそれを阻害する状況の今、ネイチャーポジティブとは何か、現状はどうなっているかお話しします。

16. LGBT 理解増進法が成立した今、 知りたいこと



会場 & オンライン

国会で「LGBT 理解増進法」が成立した。G7の中で唯一基本法がなかった日本。G7開催中になんとか法律を制定させて体面を保ちたいとの意図だったようだ。しかし、その内容は1年前に与野党間で合意した内容からどんどん後退し、最終的には当事者の人に「こんな法律ならない方がまし」といわしめるようなものであった。その経過を知るとともに、現在LGBTQ当事者の人たちが直面している問題を学ぶことで、共に生きる社会を作る第一歩としたい。

日程 10月20日（金）開講 全5回 月1回第三金曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）※1/12のみ6F愛生館サロン
参加費 通し 一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
 （単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回）

コーディネーター 雨宮 恭子（あまみや きょうこ） さっぽろ自由学校「遊」理事・趣味は畑仕事
 中谷 衣里（なかや えり） NPO法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port 代表理事
 八木 亜紀子（やぎ あきこ） さっぽろ自由学校「遊」事務局



10月20日（金）第1回

理解増進？差別禁止？

—LGBT法から日本の性的マイノリティについて考える

●満島 てるこ（みつしま てるこ）

7丁目のパウダールーム店長、さっぽろレインボープライド実行委員

2023年6月、日本で初めて「LGBT」という文言を反映した法律である「LGBT 理解増進法」が成立しました。今回は、草案段階から様々な評価や批判で溢れていたこの法案について、詳しく取り上げ検討します。

11月17日（金）第2回

今、話そうパートナーシップ制度について

●工藤 久美子（くどう くみこ）

NPO法人北海道レインボー・リソースセンター L-Port

LGBTQといわれる性的マイノリティの当事者はもちろん、LGBTQに係る人々や、周囲の人たちが社会生活を差別なく、苦しむことがなくなるための社会資源、制度の1つとして確立することを望み、制度の導入を進めました。LGBTQ当事者だけでなく、本当にたくさんの様々な人たちの協力があって導入できた制度です。今だから、パートナーシップ制度について話してみませんか。

12月15日（金）第3回

訴訟の歩みと

それが生み出す社会的インパクト

—結婚の自由を考える

●中谷 衣里（なかや えり）

結婚の自由をすべての人に北海道訴訟原告

●皆川 洋美（みながわ ひろみ）

結婚の自由をすべての人に北海道訴訟弁護人

2019年から全国5地域で係属している「結婚の自由をすべての人に訴訟」とは？「結婚の自由がすべての人に」開かれた社会がもたらすものは？全国初の同性同士の婚姻を巡る国賠訴訟の今と未来を考えます。

1月12日（金）第4回 於：愛生館サロン

差別と人権の主戦場

—アメリカから知るLGBTQ+問題の「今」

●北丸 雄二（きたまる ゆうじ）

ジャーナリスト、作家

ここ数年で急に広まった「LGBTQ+」という言葉。あまりに急速な社会化で軋みも聞こえます。しかしいま日本で起きている疑問の多くはすでにアメリカが経験してきたもの。差別と人権の大国から答えを探ります。

2月16日（金）第5回

LGBTQ+への連帯と支援

—共に生きる社会をめざして

●三浦 直登（みうら なおと）

遊会員、高校教員、事実婚・長期育休等ジェンダーにとらわれずに生きる

20年前からジェンダーやセクシュアリティの授業を行って来ました。生徒・学生や同僚の反応、カミングアウトの実例などを紹介しながら、この間の人々の意識の変化、今後の社会のあり方を考えてみたいと思います。

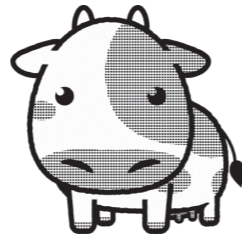
17. 人と動物との共存・共生をめざして part 3



会場 & オンライン

2019年度後期から6期にわたり実施した「人も動物も満たされて生きる～アニマルウェルフェア（動物福祉）をめぐる～」の延長で、「人と動物との共存・共生のあり方」をテーマに学んできました。今期は、酪農家やジャーナリスト、獣医師らが講師となり、それぞれの現場での課題などに学びながら、人と動物とのより良い関係を創る道筋を探っていきます。

日程 10月24日（火）開講 全6回 月1回第四火曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講も可
参加費 通し 一般6,000円 会員4,800円 25歳以下2,400円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）
コーディネーター アニマルウェルフェア講座担当チーム
<https://animalwelfare-school.com/>



10月24日（火）第1回

舎飼いから放牧酪農への転換 —牛の生理とチーズづくりの視点から

- 小栗 隆（おぐり たかし）
酪農家（八雲町在住）
- 小栗 美笑子（おぐり みえこ）
「チーズ工房小栗」代表（八雲町在住）

90年代後半、舎飼いによる「介護酪農」から放牧スタイルに転換し始めた小栗牧場。全国草地畜産コンクールでは農林水産大臣賞を受賞（2007年）し、「土・草・牛」の恵みから生まれたチーズ製造も続けてきました。二人がその歩みなどを語ります。

11月28日（火）第2回

植物性食品と栄養、動物との関係 —プラントベース食品発売の背景には？

- 森 映子（もり えいこ）
時事通信社編集委員

近年、植物由来の原材料で作られた「プラントベース」食品、動物性食品を出さないヴィーガン飲食店が増えている。関心が高まっているヴィーガンと栄養の関係、さらにアニマルウェルフェアについてお話します。

12月26日（火）第3回

タンチョウレスキューの現場から

- 飯間 裕子（いいま ひろこ）
釧路市動物園ツル担当（獣医師）

生息数が増え、生息地も広がったタンチョウ。人の近くで暮らし始め、事故にあうケースも増えています。最近急増しているのは交通事故。この先、タンチョウと仲良く暮らすために何ができるか、一緒に考えましょう。

1月23日（火）第4回

医薬品開発と動物実験

- 海野 隆（うんの たかし）
医薬品非臨床安全性コンサルタント

現時点において医薬品開発における動物実験は欠くことのできないものですが、動物福祉への国際潮流（3Rsの原則）を受けて様々な配慮がなされつつある。本講座では、その現状と将来展望を紹介します。

2月27日（火）第5回

工業型畜産と食料自給率 —乳牛のアニマルウェルフェアを考える

- 岡井 健（おかい けん）
獣医師（別海町在住）

半世紀あまりにわたり、酪農の臨床現場で診療を続けてきました。「日本の食料事情に畜産の形態が大きく関わっている」との視点から、穀物の多給が乳牛の健康におよぼす悪影響や、アニマルウェルフェアに対する見方などについてお話します。

3月26日（火）第6回

「老牛ホーム」を創る取り組み —一人の為に休まず働いた牛たちにゆっくり余生を

- 朝倉 真輝子（あさくら まきこ）
老牛ホーム「Feel at home」代表（島根県松江市在住）

牧場で働く中で、「経済動物」という名の下での乳牛たちの生命の扱われ方に疑問を持ちました。お乳が出なくなった牛に「お疲れさま」「ゆっくり過ごしてね」と言える仕組みがあっても良いのではないのでしょうか。日本初の「老牛ホーム」の試みを紹介します。

18. 出版文化の可能性 —北海道から全国に向けて発信しよう part 2



会場 & オンライン

長引く「出版不況」の中、独自路線を歩む小さな出版社や地域色をもつ地方出版社への注目が年々高まっています。東京の大手出版社にはないその魅力とはなんなのでしょうか。これまで北海道でさまざまな書籍を生み出してきた出版関係者が、前期のPart1に続いて、本作りの意義とその裏側を語ります。

日程 10月27日（金）開講 全5回 月1回第四金曜 18:45～20:45
会場 さっぽろ自由学校「遊」（愛生館ビル5F 501A）＊オンライン受講可
参加費 通し（会場・オンライン共通）一般5,000円 会員4,000円 25歳以下2,000円
（単発 一般1,500円/回 会員・オンライン1,000円/回 25歳以下500円/回）
コーディネーター 下郷 沙季（しもごう さき） 寿郎社編集者

10月27日（金）第1回

電子書籍のこれまでと取り組み方

- 佐藤 香（さとう かおり）
中西出版編集者

電子書籍が日本に上陸し12年。ここ数年は特に利用が活発化しています。地方から電子化に挑戦した経験をふまえ、道内での取り組みや図書館の動向の他、誰もが出版者となる可能性をもつ電子書籍についてお話しします。

11月24日（金）第2回

本づくりの舞台裏—企画から出版まで

- 井上 哲（いのうえ てつ）
亜細亜社書籍編集者

ひと口に「本の出版」といっても、最初に原稿がある場合もあれば、著者探しから始まる場合も。そこで我が社の自社企画書籍が、映画化ならぬ「本化」されていく舞台裏を、著者とのやりとりも交えながらご紹介します。

12月22日（金）第3回

新聞社の本づくり

- 飯屋 志郎（かりや しろ）
北海道新聞出版センター

日々のニュースを報じる新聞社で出版部門が果たす役割とは。原発問題から時代を切り取る言葉まで、深く、じっくり対象を追い続ける関口記者とともに、本というメディアにできることを考えます。[ゲスト：関口裕士（北海道新聞記者）]

1月26日（金）第4回

出版の可能性を拓く最新技術

- 竹島 正紀（たけしま まさのり）
共同文化社取締役／アイワード常務取締役

企画出版、共同出版、自費出版など多岐にわたる出版形態それぞれに、著者の要望があります。本講座では、特に家族と撮った色褪せた写真を復元させる褪色復元システムなどについて紹介します。

3月22日（金）第5回

道内出版の今とこれから

- 本講座のPart1とPart2の講師ら

前期の内容も踏まえて座談会形式で全体を振り返ります。地域文化に欠かせない存在でありながら、地域を問わず読まれる本を作り広めていくためにはどうすればよいか。道内出版の課題を洗い出し、忌憚なく話し合います。



19. 安保3文書を読み解く — 批判的安全保障の観点から



会場 & オンライン

昨年12月16日に安保3文書が閣議決定された。この中の「国家安全保障戦略」は、2013年安倍第2次内閣以来の改定で、大きく豹変した。例えば、「～特に沖縄県については、(中略)在日米軍専用施設・区域の多くが集中していることを踏まえ、普天間飛行場の移設を含む負担軽減のための取組に最大限努力していく」この文章がなくなった。更に「ミサイル防衛能力を質・量ともに不断に強化していく」「飛来するミサイルを防ぎつつ、相手からの更なる武力攻撃を防ぐために、(中略)すなわち反撃能力を保有する必要がある」とした。また昨年10月12日には、米国の「国家安全保障戦略」が公表された。日本の安保3文書との関連や米国の世界戦略も見たい。「～批判的安全保障論とは、一体、誰のための安全保障かを問い直すとともに、安全保障という名目で強化されている抑圧的な政治権力からの解放の可能性を検討する～」(「安全保障とは何か」岩波) こういった観点から考えていきたい。

日程 11月22日(水) 開講 全5回 月1回水曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し(会場・オンライン共通) 一般3,500円 会員3,000円 (単発700円/回)

報告者 北村 公一(きたむら きみかず) さっぽろ自由学校「遊」理事、元小学校教員

11月22日(水) 第1回

安保3文書と現状と問題点

「国家安全保障戦略」「国家防衛戦略」「防衛力整備計画」がこの9年間でどのように変わったかを読み解きます。

12月20日(水) 第2回

米国の「国家安全保障戦略」と現状と問題点

米国が日本に与える影響や世界戦略をみていきます。

1月24日(水) 第3回

憲法と日本の安全保障の歴史的推移と問題点

9条の成立過程、専守防衛や政府見解などみていきます。

2月28日(水) 第4回

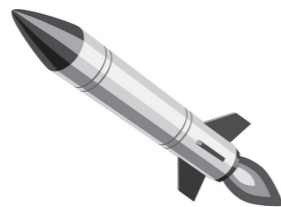
23年防衛白書にみる安全保障の扱い方と問題点

22年から23年にかけての変更点や具体的装備についてみていきます。

3月27日(水) 第5回

核抑止論に対する批判的安全保障論について

核禁止条約と核抑止論の関係についてみていきます。



20. 半導体産業戦略の是非を問う



会場 & オンライン

「産業のコメ」と称される半導体をめぐって世情がにわかに沸騰してきている。国内ではまずは半導体メーカー大手のTSMC(台湾積体回路製造)がソニーと提携して九州熊本に半導体工場を建設中で、総投資額は約1兆円規模で、日本政府は積極的に支援を行なうことを表明している。次いで北海道千歳に、次世代半導体の量産を目指す純国産企業「ラピダス」が進出計画を発表したが、総投資額はなんと5兆円規模で、これにも日本政府は1兆円近い融資を発表しており、いずれも現岸田政権は原発政策とともに前のめりになっている。今回の講座でこの半導体産業の功罪と地政学的リスクを明らかにしたい。

日程 2024年1月16日(火) 開講 全3回 月1回第三火曜 18:45～20:45

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン受講可

参加費 通し 一般3,000円 会員2,400円 25歳以下1,200円

(単発 一般1,500円/回 会員1,000円/回 25歳以下500円/回)

講師 藤原 寿和(ふじわら としかず)

1946年生まれ。茨城県出身。早稲田大学理工学部応用化学科卒業後、東京都職員として40年間、環境公害産業保安行政に携わる。廃棄物処分場全国ネットワーク、止めよう!ダイオキシン汚染・東日本ネットワーク、有害化学物質削減ネットワーク、化学物質問題市民研究会、ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議、日台油症情報センター、千葉県放射性廃棄物問題を考える住民連絡会などで活動。

コーディネーター 井上 真智子(いのうえ まちこ)・中 雅子(なかまさこ)・田村 リエ子(たむらりえこ)

いずれもさっぽろ自由学校「遊」会員

1月16日(火) 第1回

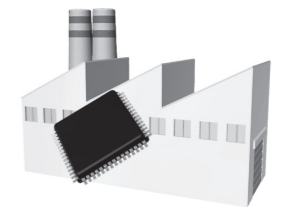
地政学からみた半導体産業

現政権の半導体産業支援の背景には、米中貿易摩擦という地政学的なリスクが増したことで、半導体を経済安全保障上の重要な戦略物資と位置づけ、国を挙げて半導体産業を日本産業の復興の拠点として支援する狙いがあります。地政学の視点から半導体産業を見つめます。

2月20日(火) 第2回

環境・資源問題からみた半導体産業

半導体産業はかつて環境汚染を引き起こした産業で、今日的にも大量の地下水資源と電力を消費する「環境にやさしくない」産業です。環境・資源の視点から半導体産業の問題に迫ります。



3月19日(火) 第3回

ハイテク災害問題からみた半導体産業

半導体工場では窒化ガリウムなどの毒性物質や危険物質を取り扱うため、過去に国の内外で深刻な労働災害や爆発事故などの災害をもたらしてきました。この実態を紹介し、安全性について考えたいと思います。

内科・神経内科
**札幌中央
ファミリークリニック**
外来一般診療
月火・木金 9:00～11:30
外来は予約してください
札幌市中央区南1条西11丁目
ワンス南一条ビル6F
TEL.272-3455

いつだって No Nuke!

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

雑貨(もの)・ひと・食のひろば
みんたる
MINTARU
フェアトレード雑貨&レストラン

札幌市北区北14条西3
Tel&Fax.011-756-3600
http://www.mintaru.com
営業時間/11:45-22:00
定休日/日・月・祝日

みどり内科
クリニック 内科・消化器科
注射でラクな内視鏡検査できます。
白石区本郷通13丁目南4-27 ムトウビル2階 ☎866-4563 P有

自然食ホロ

札幌市東区中沼西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224
いつも喜んで、
感謝して。
http://holo.sunnyday.jp/

EAST TIMOR
MAUBISSE COFFEE
東ティモール コffee
ネパティック
フェアトレード
マウベン珈琲

090-8897-3134

21. アイヌアートデザイン教室



会場

アイヌ民族が先住民族と認められてからまだ日が浅いですが、アイヌ文化・芸術の歴史はとても深いものです。生徒さん自身の手で作る事によって、それらの文化を身近に感じる事ができると思います。是非一度チャレンジしてみませんか。お待ちしております。



日程 10月11日(水)より
月2回 第二・第四水曜 13:00～15:00

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

受講料 4,000円/月(材料費は含みません) *一年間以上の継続が前提となります。

※受講をご希望の方は、クラスの見学(1回)可能です。まずはお問い合わせください。

講師 貝澤 珠美(かいざわ たまみ)

アイヌアートデザイナー。1974年8月10日平取町二風谷に生まれる。高校卒業後デザイン学校に通い、'97年に独立。ファッション、インテリア、アクセサリー等、アイヌ文様をモチーフにしたオリジナル作品を製作している。



22. 読書室よりみちまわりみち



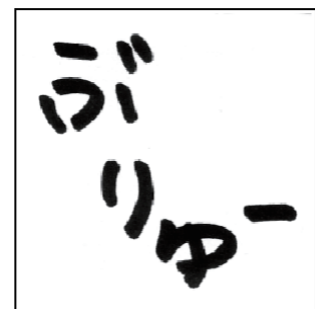
会場

“読書が好き”“興味深い本を紹介してほしい”そんな仲間が集まる、気さくで楽しい場です。ジャンルは問いません。これまで、話題の本、ノンフィクション、旅行記、エッセイ、時代小説から現代小説まで、そして絵本、詩集、写真集、歴史、社会、経済など様々な分野の本が紹介されてきました。普段なかなか手にとることのない本を紹介され、自分の興味対象が広まったりすることも多かったです。自分がおもしろかったと思う本(電子書籍もokです)を紹介し合うことが基本ですが、そこからいろいろに話が広がったり、知らなかったことに気づかされたりすることも多く、それも楽しいです。話を聞くだけでも、おしゃべりするだけでもok、朗読もokです。是非一度、覗いてみてください！本を通して一緒に楽しいひとときを過ごしませんか？新しい仲間をお待ちしてま～す！

日程 10月21日(土)より 全6回 月1回第三土曜 14:00～16:00
10/21、11/18、12/16、1/20、2/17、3/16

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A)

参加費 1回500円 通し2,500円



23. カール・マルクス著『資本論』を読む



会場 & オンライン

『資本論』第一巻「資本の生産過程」をじっくり読み進めていきます。とくにはじめの部分は難しいので、根気強さが求められますが、一緒に励まし合いながら読んでいきます。

日程 10月4日(水)開講 全6回 月1回水曜 18:45～20:45
10/4、11/1、12/6、1/10、2/7、3/6

*次年度以降も継続予定です。読了のためには、おそらく最低4年前後を要すると思います。

会場 さっぽろ自由学校「遊」(愛生館ビル5F 501A) *オンライン参加可

参加費 通し 一般4,800円 会員3,600円 25歳以下1,800円

(単発 一般1,000円/回 会員800円/回 25歳以下400円/回)

チューター 宮田 和保(みやた かずやす)

熊本県生まれ。北海道大学卒業。現在、北海道教育大学名誉教授。専門は、理論経済学(マルクス経済学)と言語理論です。せっつかれるのが極めて苦手で、マイペースでしか生きていけない性格です。

テキスト カール・マルクス著『資本論』

『資本論』第一巻(大月書店)を共通テキストにして統一します。他に訳本がありますが、訳本がバラバラだとページが異なるので、煩雑さをふせぐことにします。

参考文献 大谷 禎之介『図解 社会経済学』(桜井書店)



24. 「遊」版 うたごえ喫茶 2023

通わそうよ ことばと心! 思い切りうたって気持ちすっきり!



会場

2016年度後期から始まった「うたごえ喫茶」。しばらくお休みしていましたが2022年度後期より復活しました。なつかしい歌、お気に入りのうた、思い出のうた、元気が出るうた…、みなさんのリクエストでいろんな歌を歌います。みんなで歌うと、みんなの声が合わさって、なぜかとても気持ちがいい!! 参加者どうしの語り合いも大切にしていきます。どうぞ気軽にのぞいてみてください!

日程 10月20日(金)より 全6回 月1回第三金曜 14:00～16:00
10/20、11/17、12/15、1/19、2/16、3/15

会場 愛生館サロン(愛生館ビル6F 南側奥)

参加費 1回500円 通し2,500円(飲み物はご持参ください)

※新型コロナウイルス感染症対策として、定員は10名、完全予約制とします。

参加を希望する方は必ず事前予約をお願いいたします。

→予約先…TEL 090-6992-2538(うたごえ専用受付電話:当日まで受付)

※マスクの着用、手指の消毒に協力ください。



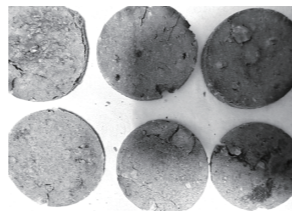
e. 美味しい講座 縄文を食べる2

—エゾシカ、きのこの最新科学と料理



会場

縄文時代の貴重な食材であったエゾシカですが、現在は捕獲後ほとんどが廃棄されています。縄文時代にもたくさん食べられていた「きのこ」は、現在生態系での重要な役割、食を支える有望な素材として注目されています。エゾシカ問題、きのこの可能性から食のあり方を考えます。会場で調理したエゾシカ肉のステーキとキノコのソテーなどを食べます。縄文クッキー、エスプーマ・デザートもあります。知と食を組み合わせ、楽しさと美味しさの相乗効果を堪能できる、お得な講座です。



縄文クッキー

日程 12月5日(火) 18:45～20:45

会場 コミカフェ加伊(札幌市東区北39条東17丁目1-27) 地下鉄栄町駅4出口から徒歩約6分

参加費 2,000円 ※完全予約制 先着10人

コーディネーター 俵屋年彦(たわらやとしひこ) さっぽろ自由学校「遊」理事・FM三角山放送局パーソナリティ
若月美緒子(わかつきみおこ) さっぽろ自由学校「遊」会員・「コミカフェ加伊」店主

講師 俵屋年彦(たわらやとしひこ)

持続可能な社会を実現するため、衣食住の歴史を振り返り、現在の食のあり方の見直しを探求してきました。理論としてではなく、実際の料理として新しい食のあり方を表現し、食べていただきます。

f. VR アートの大きな可能性

—生成 AI と空間コンピュータ時代に開花する



オンライン

質の高い創作物を短時間で制作する生成 AI が社会に衝撃を与えています。一方、誰もが簡単に、手書きで空間に絵を描いていく VR アートは、その制作過程、一緒に制作する楽しさこそが魅力です。プロセスが大切です。これからは2次元のモニターではなく、空間がコンピューター環境に変わります。VR や AR は特別な体験ではなく、日常的な生活環境になります。その空間を魅力的にし、人々を楽しくつなぐ表現が VR アートです。廃材を出さない SDGs なアートでもあります。「VR アートを楽しむ会」代表の俵屋年彦が講師を務め、VR アーティストをゲストにお迎えします。

日程 2024年3月8日(金) 18:45～20:45

会場 オンライン (zoom 使用)

参加費 1,000円

企画 「VR アートを楽しむ会」

VR アートは、分断社会を変えていきます。国や性別や年齢、障害のあるなしに関係なく誰もが作品を楽しみ、作品を制作できます。さまざまな壁をとかし、人々をつなぎます。街を楽しい空間に変えていきます。さまざまな形で、VR アートを広め、展示会や体験会を開いていきたいと思えます。

メールアドレス =vraftun@gmail.com <mailto:vraftun@gmail.com>



さっぽろ自由学校「遊」発行物のご案内

『アニマルウェルフェア BOOK 人も動物も満たされて生きる』
(アニマルウェルフェア研究会、2023年3月、A5判56ページ)

※冊子残部あります。入手ご希望の方は「遊」事務局まで。

『カムイチェブ読本 北海道の新しいサケ管理』
(カムイチェブ・プロジェクト研究会、2021年3月、A5判56ページ)

北海道メジャーグループ・プロジェクト2020報告書

『聴きあおう 未来を照らす あなたの言葉 わたしの言葉』
(チーム「北海道メジャーグループ・プロジェクト2020」、2021年9月、A5判62ページ)

『SDGs アドボカシーと対話 北海道 SDGs 推進懇談会の記録』
(2019年3月、A4判156ページ)

『SDGs 北海道の地域目標をつくろう2 SDGs×先住民族』
(2018年3月、A5判60ページ)

『SDGs 北海道の地域目標をつくろう』
(2017年3月、A5判48ページ)

※いずれも、「遊」ウェブサイト発行物紹介ページよりダウンロードできます。



オンライン茶話会・遊サロンへのお誘い

Zoomを使ったオンライン茶話会・遊サロンを試行しています。ゆるい会話で、いろいろ情報交換しています。講座の様子や裏話なども聞けます。IT関係などのわからないこと、ちょっとした質問にもお答えします。時間は30-40分くらい。途中参加・退席自由です。講座の紹介も行っていますので、お時間があれば、参加してみてください。参加と言っても、聞くだけでもよろしいです。「遊」事務局にメールアドレスをお伝えいただければ、遊サロン開催のメールをお届けします。

(担当・俵屋年彦)

参加申込アドレス moshikomi@sapporoyu.org ※タイトルを「遊サロン参加希望」としてください。

「遊」の公式 Youtube チャンネルへのお誘い

さっぽろ自由学校・遊では、講座の内容をより広く知っていただくため、遊の公式 Youtube チャンネルで PR 動画の公開を行っています。パンフレットの内容とともに、参考にいただくと嬉しいです。講座ごとにまとめています。講座の特徴が、動画になっていますので、お時間のある時に、ぜひご覧ください。

https://www.youtube.com/channel/UCEJ7LS7SqXob-pjltFQ_OQ/videos



※ PR 動画ページの QR コード

NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」 設立趣意

さっぽろ自由学校「遊」は、1990年に設立されました。その最初の呼びかけを引用します。「私たちの住む世界は、めまぐるしい変化を見せています。東欧諸国の自由化の波、アジア・第三世界の解放の動きから私たちのすぐ身近な食べ物、環境、文化まで、新しい〈価値〉が生み出されようとしています。そして、その主人公はどこかの偉いさんではなく、一人ひとりの〈わたし〉のほうです。自由学校「遊」は、そんな〈わたし〉が出会い、学び合い、〈わたし〉と〈世界〉との新しいつながりを創りだすことを願ってつくられました。」

今、21世紀の入り口に立って、新たに以下のことを目指します。

自立と共生 さっぽろ自由学校「遊」は、この呼びかけにあるように自由で自立した市民として、国籍や国境を超えて広くアジアや世界の草の根の市民とつながり、共生するための生き方、知識、技法を身につける場となることを目指します。

平和と人権 さっぽろ自由学校「遊」はまた、一人ひとりの市民が、かつての植民地支配と侵略戦争が他の諸国の人々にもたらした加害の歴史を認識し、その罪に対する反省を共にし、平和と民主主義、正義と人権の理念を、市民社会の日常倫理として身につける場となることを目指します。

交流と提案 さっぽろ自由学校「遊」はまた、教える者と教えられる者の関係が固定した、従来の教育制度上の「学校」ではなく、市民が、考えや知識や技能を相互に交換しあい、お互いのより良い生き方、お互いが恵みを受けている地球環境と人間社会の共生のあり方を探求し、提案し、行動のきっかけを見つける学び合いの場として発展することを目指します。

(2000年7月23日起草)

市民がつくる市民のための学びの場 さっぽろ自由学校「遊」を応援してください！

さっぽろ自由学校「遊」の活動資金は、各事業の参加費のほか、皆様からの会費や寄付金によって賄われています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

■「遊」の会員になってください

- 正会員（年会費 5,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同し運営に協力する会員。年1回開催される総会への参加のほか、随時行われる企画・運営会議にも参加できます。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- 準会員（年会費 3,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の趣旨に賛同する会員。ただし、運営上の権利および責任はもちません。会報誌「ゆうひろば」や企画案内を随時お送りします。また、各講座には会員料金で参加できます。
- 特別会員（月 4,000 円／年間 48,000 円）** さっぽろ自由学校「遊」の活動を資金的に支えていただく会員。議決権などの法人運営上の諸権利は正会員と同じ立場です。**単発参加可能なすべての連続講座を無料で受講**することができます。

* 入会申込フォーム <https://ssl.form-mailer.jp/fms/17526b50792839>

■ ご寄付をお願いいたします

- 一般寄付** いただいたご寄付は、「遊」の運営・事業全般に活用させていただきます。用途を特定される場合は、その旨明記のうえお振込願います。
- ひと基金** スタッフの件費補助や、研修等への派遣旅費の補助など、幅広い人材を育成していくための資金援助を目的とした基金です。（1口 5,000 円）

<ご入金の方法> 郵便振替用紙に必要事項を明記の上、お振込願います。

郵便振替 02780-5-47036 口座名：自由学校「遊」

※他行からお振込みの場合 ゆうちょ銀行（9900）二七九店（279）当座 0047036

